

管理職の実践知リーダーシップ研修

研修のねらい

- (1) ナレッジマネジメントを体感し、実践知リーダーシップとしてのあり方を学ぶ。
- (2) 体験を言語化し、暗黙知を表出化することで、イノベーションを創発させる場を作り出すリーダーを養成する。

手法と特徴

自社ケースによるグループディスカッションを中心に進行する体験型研修です。既存のビジネススキルのインプットではなく、経験を言語化し知に活用していく実践的な学び方を体験いただきます。

●プログラム：1日研修（対象：管理職）

時間	項目(手法)	内容
1日	1. オリエンテーション 2. 体験学習・振り返り 3. 自社ケースを用いたディスカッション 〈自社ケースについて〉 受講対象の管理職から3名選出。インタビューを行い、ケースを作成。事前配布し、研修当日までに読み込み及び各ケースに共通する問題点や自社のマネジメントについて良い点・改善点をお考えいただいたうえでご参加いただきます。 4. 研修のまとめ	・研修の目的と参加の仕方を確認 ・「他責と自責」「暗黙知と形式知」について体験学習および振り返りを通して学ぶ ★ディスカッション実施イメージ ①会社の課題をケースから抽出 ↓ ②ケースを読んで感じたことをアウトプット ↓ ③キーワード出し(言語化・見える化) ↓ ④SECIモデル(※)に当てはめて考察 ・研修を通して気づいた、自社の問題に対する貢献を検討

(※)SECIモデル：野中郁次郎氏（一橋大学名誉教授）提唱の知識創造理論

自社ケース採用のねらいとメリット

- ・現場の声である自社ケースを用いることで状況がイメージしやすく、当事者意識で取り組める。
- ・自分たちの経験を既知のリーダーシップ理論に照らすことで、課題をより実践的に考え自分に取り入れることができる（スキルの獲得）。
- ・現場で実践知リーダーシップを発揮するための管理職としてのマネジメント能力が向上する。